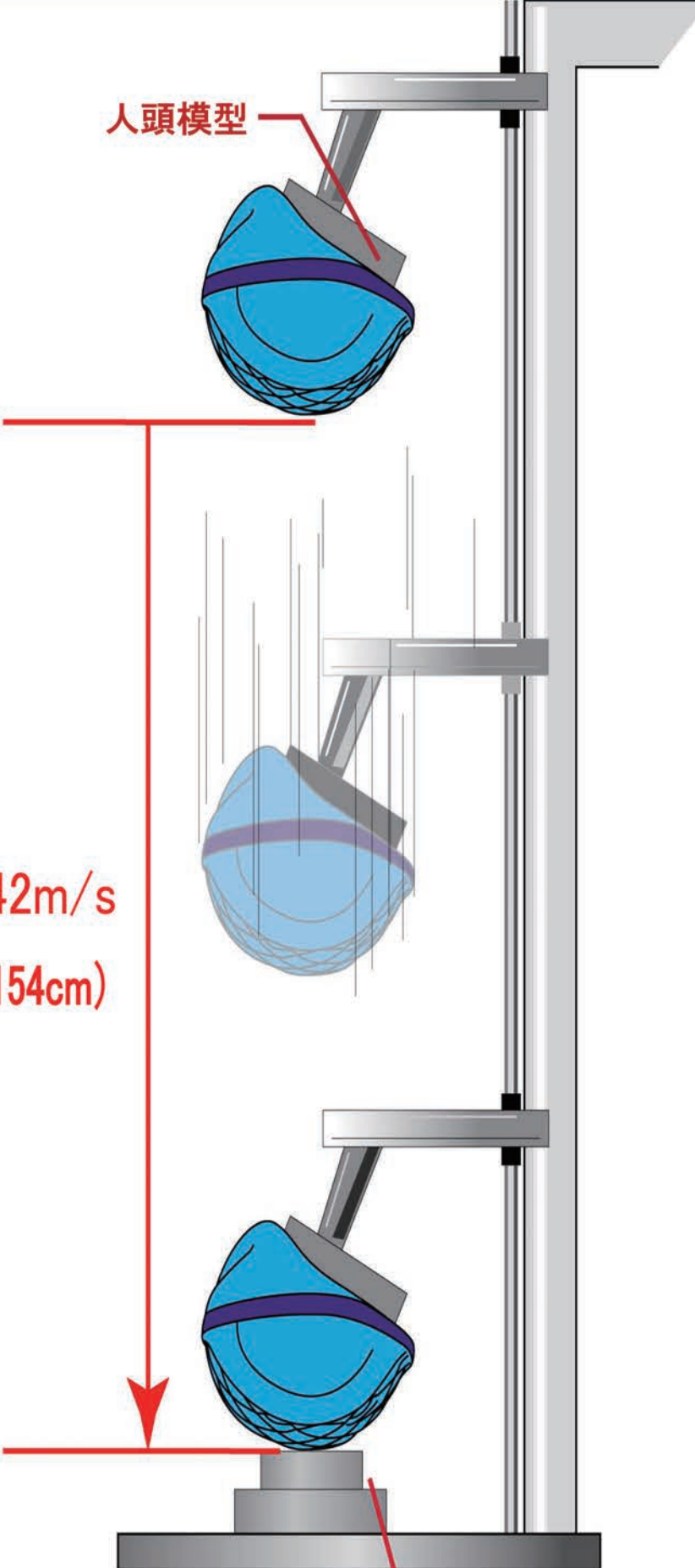
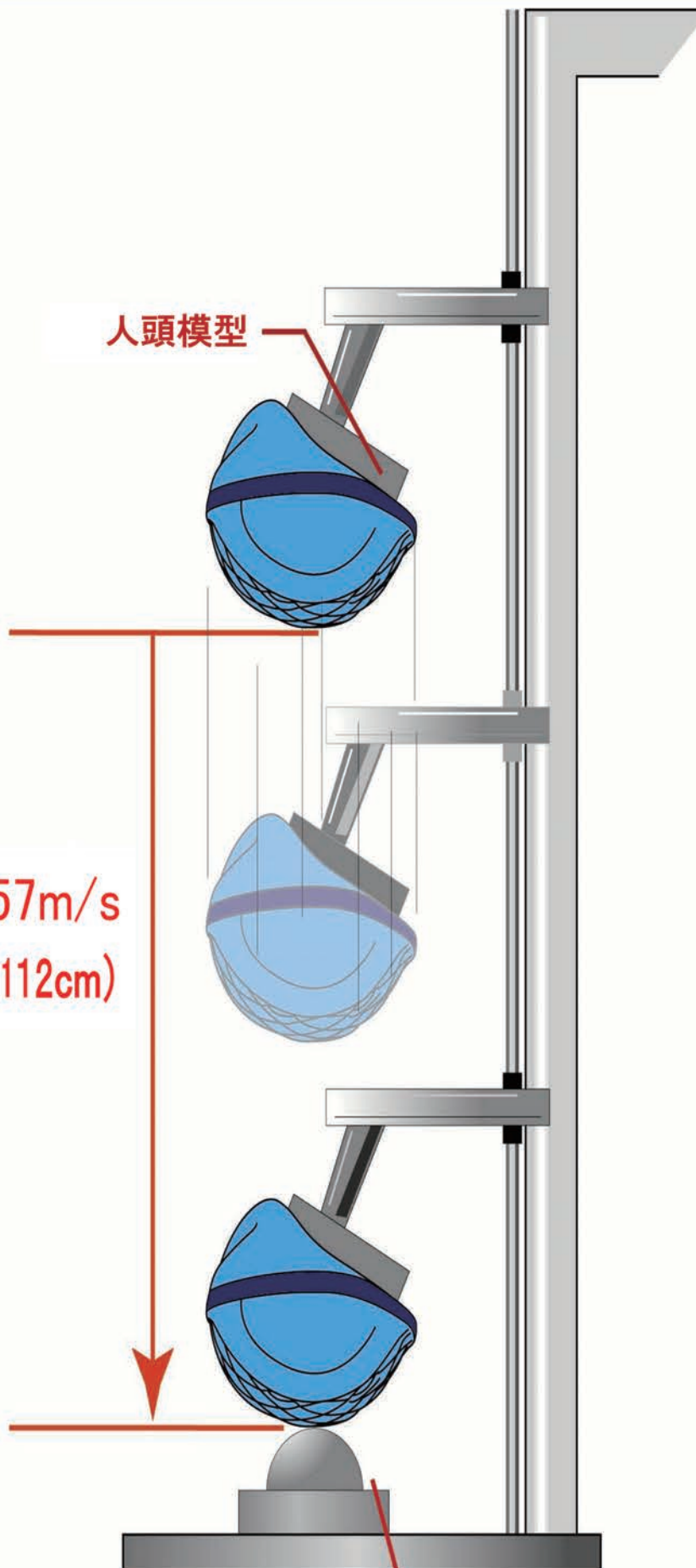
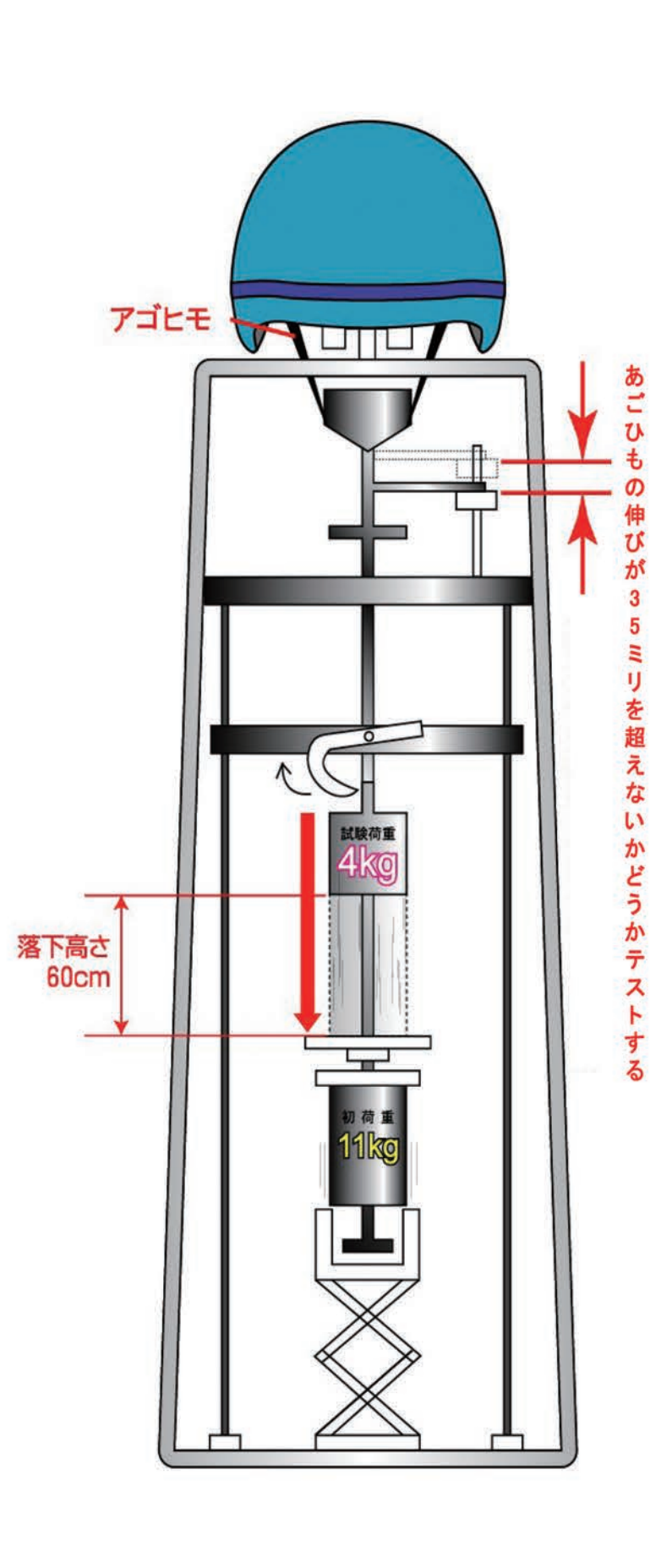
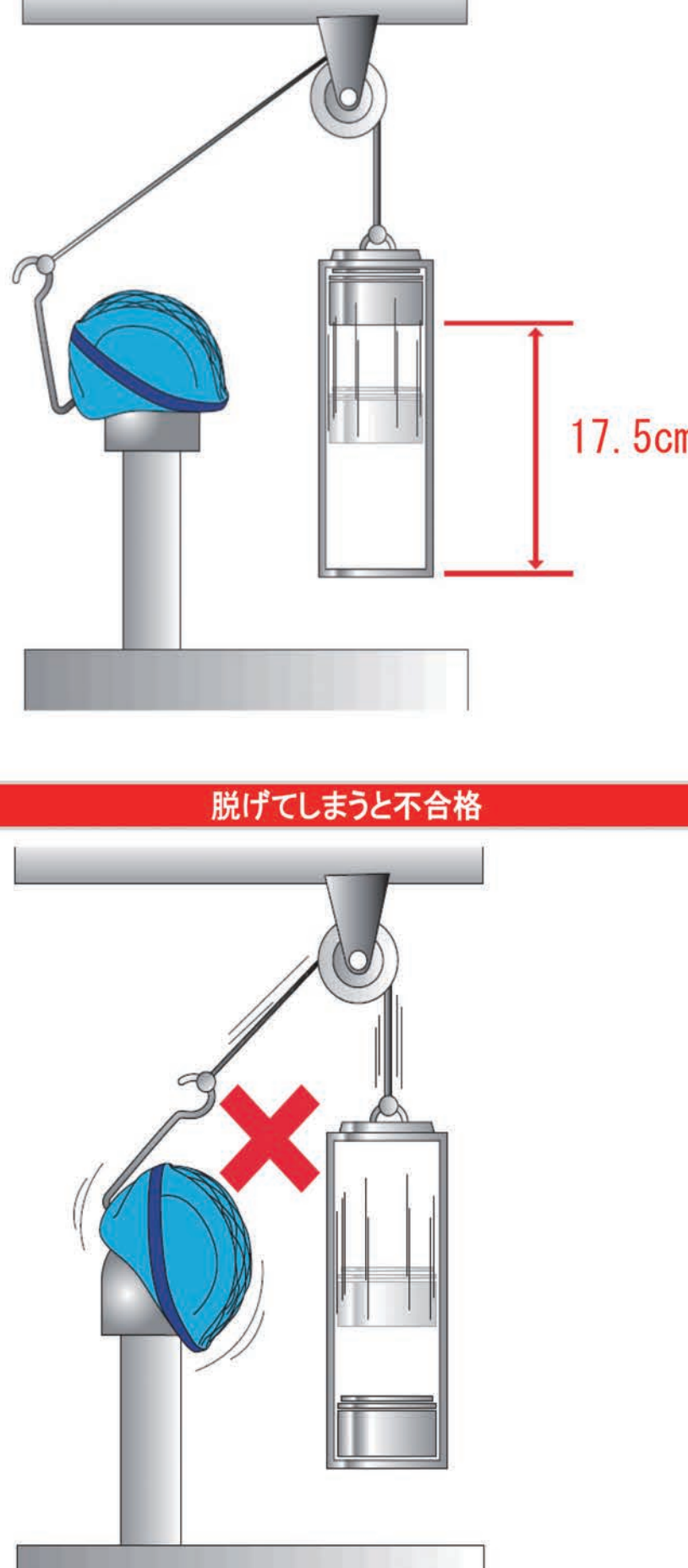


自転車用ヘルメット SG 基準

自転車用ヘルメットSG基準の試験には、おもに「衝撃吸収性試験」「あごひも引張強度試験」「ロールオフ試験」があります。以下の表でこれら試験の内容を説明します。

| 衝撃吸収性試験 (平面アンビル) | 衝撃吸収性試験 (半球アンビル) | あごひも引張強度試験 | ロールオフ試験 |
|---|---|---|---|
|  |  |  |  |
| <p>試験方法と合格の条件</p> | | <p>試験方法と合格の条件</p> | <p>試験方法と合格の条件</p> |
| <p>転倒時に頭部に受ける衝撃をヘルメットが正しく吸収できるかどうかを確認する試験です。 上の図のように衝撃吸収性試験用ストライカにヘルメットを取り付け、鋼鉄製アンビルに落下させたとき、衝撃加速度(衝撃の大きさ)が 300G(2845m/s²)より小さく、また、150G(1472m/s²)以上の衝撃加速度を記録する時間が 4ms(ms はミリ秒。1 ミリ秒は 1/1000 秒です。)より小さければ合格です。 鋼鉄製半球アンビルに秒速 4.57m(約 112cm)の速度で衝突させたとき、鋼鉄製平面アンビルに秒速 5.42m(約 154cm)の速度で衝突させたときのいずれの場合でもこの基準をクリアしなければなりません。</p> | | <p>転倒時にあごひもが伸びてしまったり、バックルが破損して、ヘルメットが脱げたりすることがない様、あごひも引張強度を確認する試験です。 上の図のようにあごひも引張強度試験装置にヘルメットを取り付け、初荷重(11kg)を加えた後、試験荷重(4kg)を600mm の高さから落下させたときのあごひもの伸びが 35mm より小さければ合格です。</p> | <p>転倒時に簡単にヘルメットが脱げてしまうことがないかどうかを確認する試験です。 上の図のように、ヘルメット後頭部に引張器具の付いた金具を取り付け、器具に 10kg の重りを 17.5cm の高さから落下させたときにヘルメットが脱げ落ちなければ合格です。</p> |